2026年9月
発行

一般社団法人首都圏ARコンソーシアム

MARC

Metropolitan Academic
Research Consortium



日本発の革新的な医薬品・医療機器を医療現場に届けるために、

首都圏の私立医科系大学をはじめとする臨床研究機関が連携・協力関係を結び、

アカデミアの基礎研究の成果を実用化につなげます。

ごあいさつ

Greeting

首都圏ARコンソーシアム（MARC）は平成29（2017）年1月に設立され、令和9（2027）年1月に満10年を迎えようとしています。

MARC発足のきっかけは、平成19（2007）年度に文部科学省によりスタートした橋渡し研究事業において、慶應義塾大学が平成26（2014）年に橋渡し研究拠点の1つとして採択され、更に平成28（2016）年に臨床研究中核病院に承認されたことにより、拠点周辺地域のネットワーク構築を行うことが求められていたことによるものです。MARC設立当初、日本全国で医学部を擁する81大学のうち私立大学の多くが首都圏に集中していましたが、その大学間をつなぐネットワークは存在しませんでした。また、各研究機関間や研究者間で数多くの連携・協力が行われてきたものの、経験やノウハウの蓄積、情報共有を図る包括的な仕組みがなく、研究成果の実用化に向けた臨床試験・治験の加速や効率化につなげることが出来ていない状況でした。そのため、首都圏に集積するアカデミアの優れた研究成果をもとに革新的な医療技術や医薬品・医療機器を効率的かつ持続的に創出し、各大学が有する機能を活用した非臨床・臨床一体型の橋渡し研究支援体制とそれに関わる人材の育成と交流、情報共有が可能な体制構築を目的として、以下のMission/Visionを掲げてMARCが発足されました。

Mission
ミッション

**アカデミア発の基礎研究の成果を実用化し、
いち早く患者さんやその家族のもとに届け、
健康長寿社会の実現を目指します。**

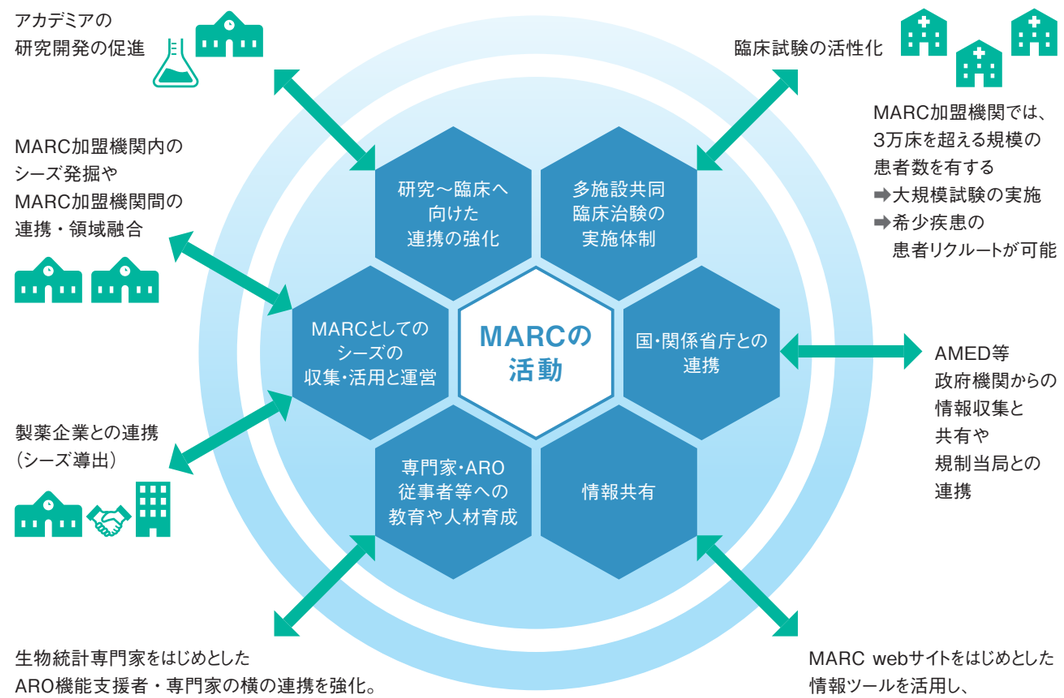
Vision
ビジョン

**首都圏の私立大学をはじめとする臨床研究機関が
MARCを核として連携・協力関係を結び、
ネットワーク内の研究資源（人材・設備・情報）を有効活用し、
国際的に貢献出来る持続可能な体制を構築します。**

MARC発足後5年を迎えるタイミングである令和4（2022）年4月には、社会的信用の増大、運営体制の明確化並びにコンプライアンス対応を進めていくため、一般社団法人首都圏ARコンソーシアムとして新たなスタートを切りました。一般社団法人となった後も、MARCの活動に際し、多くの大学・機関に賛同・参画いただき、さまざまな活動を行ってまいりました。現在、臨床研究体制を有する医歯系大学を中心として構成される15の「構成機関」と医療基礎研究を実施している理工系を中心とした大学・学部や独立研究機関で構成される8つの「連携協力機関」により、体制整備、シーズ発掘、教育・人材交流、臨床研究、領域融合の5つのワーキンググループ（WG）を核としたさまざまな活動を行っています。今後も「産」「官」「患」との連携も視野に入れ、10周年とその先を見据えながら、Mission/Visionをもとにコンソーシアムとしての機能を最大限に活かした活動を行っていきます。

MARCの活動と機能

Major Activities and Role



1 研究開発の促進

アカデミア発革新的研究シーズの発掘とその研究開発の促進、MARC加盟機関内での連携（連携協力機関発のシーズを医学専門家が多い構成機関と連携する等）、更に企業連携・企業導出を推進

2 情報共有

AMED、厚生労働省/文部科学省、PMDA、ARO協議会等の最新動向や情報の共有、MARC加盟機関の情報の共有と連携強化

3 臨床試験の実施に向けた対応

MARC加盟機関の病床数を活用した多施設共同臨床治験の実施（MARC発の研究シーズの医師主導治験や企業・CROからの依頼に基づく治験への対応）

4 MARC加盟機関間の連携

MARC加盟機関が有するARO機能を利活用し、相互補完・連携協力を行うとともに人材育成・人材交流を活性化

MARCの組織体制

Structure

＞ 一般社団法人首都圏ARコンソーシアムの組織体制

一般社団法人首都圏ARコンソーシアムでは、以下のような体制で運営を行っています。

代表理事

事務局

社員総会
- MARC構成機関から各1名代表者（社員）を登録
- 社員総会にて、社員・加盟機関の承認と除名、理事・監事の選任・解任、決算承認、定款変更等を行う

理事会
- 理事・監事で構成
- 法人の業務執行の決定
- 理事の職務執行の監督、理事長の選定・解職

運営会議
- MARC加盟機関の代表実務者による会議
- 事業計画の企画・運営
- ワーキンググループの設置・運営等

**ワーキンググループ
分科会
専門家連絡会**
- 特定の課題につき調査・計画推進を行う
- 特定分野において専門的な議論を行う

一般社団法人首都圏ARコンソーシアムは、法人設立時に定めた定款に基づき、運営を行っています。年1回開催の定時社員総会では、各構成機関から1名ずつ選出された社員により定款に定められた事項に関する議論、決議を行います。一方、日々の運営については理事会での議論をもとに運営会議等MARC加盟機関の皆様と協議・合意の上推進しています。

＞ 構成

MARC加盟機関は、下記の通り「臨床研究体制（治験体制）」の有無により「構成機関」「連携協力機関」の2つの機関に分かれ、効率的な協議・運営を行っています。

構成機関	臨床研究体制を有する研究機関 （医歯系大学等）
連携協力機関	臨床研究体制を有しない団体・組織 （薬学・理工学・農学等の大学・学部や単科大学、独立研究機関等）

構成機関

Members

首都圏の私立医科系大学をはじめとする臨床研究機関が連携・協力関係を結び、
アカデミアの基礎研究の成果を実用化につなげる非臨床・臨床一体型の橋渡し研究体制の構築、
人材の育成と交流、情報の共有等を図ります。



北里大学

学校法人北里研究所

＞ https://www.kitasato.ac.jp/

生命科学のあらゆる叡智を結実し人類と社会の豊かな未来をひらく

医薬開発は基礎研究の成果を人類に還元するいわば「究極の実学」であり、私たちが最も力を投入してきた領域です。

病院内に独自の第I相試験施設を持ち、大学院薬学研究科にカリキュラムを開設して教育・研究を進めています。

3つの附属病院が連携した臨床教育・研究や、統合医療、治験・臨床研究の推進など、多様な専門性を活かした実践的な医療研究を展開しています。



杏林大学

杏林大学医学部・付属病院　臨床研究センター

> https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/

先進的な医療の実践と開発に取り組む！

杏林大学医学部は、東京都の人口の3分の1、およそ400万人が在住する多摩地区に本拠を置く唯一の医学部であり、医学部付属病院は東京西部地区三多摩の中核医療センターの役割を担っております。

地域の方々のニーズに応えることを目指す大学病院として、科学に基づいた医療の提供のため、臨床試験（治験、医師主導臨床試験、第I相試験から第Ⅳ相試験）を積極的に実施しています。2025年度からは臨床試験・臨床研究を支援する臨床研究センターを付属病院に開設いたしました。

今後は、MARC参加機関と連携し、臨床研究センターを中心に臨床研究支援体制の構築および強化を目指します。



慶應義塾大学

慶應義塾大学病院　臨床研究推進センター

> https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/

橋渡し研究拠点・臨床研究中核病院としての使命を果たす

橋渡し研究の拠点であり、かつ臨床研究中核病院の1つである慶應義塾大学は、拠点内外のシーズ育成を支援し、推進していく使命を担っています。我々慶應義塾大学病院は、基礎研究から臨床への研究開発を牽引するとともに、各構成機関の大学や病院とのネットワークを通じて、シーズの研究開発や臨床研究の推進に貢献し、最終的には企業との連携を構築することにより社会実装を目指します。



埼玉医科大学

埼玉医科大学研究統括センター

> https://www.saitama-med.ac.jp/research/

豊富な臨床資源と高度専門人材による研究支援

埼玉医科大学は、大学病院、高度救命救急・総合周産期医療を担う総合医療センター、がん・心臓・救命救急医療に強みを有する国際医療センターを擁し、関係法人の病院も含め、各病院の特色を活かした診療体制を展開しています。これらの病院群に集積される豊富な臨床データや、希少疾患を含む多様な臨床資源は、本学の大きな強みです。こうした臨床基盤を活かし、臨床研究・治験から実臨床への応用までを一体的に支援するとともに、生物統計、薬事規制、企業連携、外部資金獲得等に精通した高度専門人材が、質の高い研究の推進と研究成果の社会実装を後押ししています。



自治医科大学

自治医科大学附属病院　臨床研究センター

> https://www.jichi.ac.jp/scci/

臨床研究を計画段階から支援し、信頼性の高い研究を実現

自治医科大学附属病院臨床研究センターは、臨床研究を戦略的に推進し、医療の進歩と福祉の向上に寄与することを目的に、病院長直轄の組織に統一し、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等の各種専門家が協力して、高い倫理性と科学的妥当性を持った治験、臨床研究が円滑に実施されるように支援しています。

MARCの活動を通して、臨床研究体制のさらなる充実を図り、未来の医療の発展のために貢献したいと考えております。



帝京大学

帝京大学医学部附属病院　臨床試験・治験統括センター

> https://www.teikyo-hospital.jp/hospital/section/clinicaltrial/

医学研究の推進に全力

帝京大学板橋キャンパスには医学部附属病院と医療系学部等（医学部、薬学部、医療技術学部、公衆衛生学研究科）および大学本部が集結しており、医学部附属病院臨床試験・治験統括センター、臨床研究センター、産学連携推進センター等が横断的に連携して新たなエビデンス創出に向け活動しています。

MARCの活動を通して学内外の連携を深め、研究体制のさらなる充実、人材の育成、情報の共有に貢献したいと考えています。



東海大学

東海大学　医学部・医学部付属病院

> https://www.med.u-tokai.ac.jp/

“科学とヒューマニズムの調和”のもと、ゲノム医療・再生医療・創薬の橋渡し研究を推進

東海大学医学部・医学部付属病院は、創立者松前重義が掲げた「科学とヒューマニズムの調和」の理念を礎に、「病気を診るのではなく患者を診る」という患者中心の医療を実践しています。また、診療科をはじめ、臨床医学と基礎医学の各分野が連携する横断的な研究体制のもと、総合大学としての強みを生かし、ゲノム医療、再生医療、創薬分野を中心とした橋渡し研究を推進しています。生命科学統合支援センターおよび治験・臨床研究センターが研究活動を支援し、基礎研究から臨床応用までを一体的に推進することで、基礎研究の成果を臨床へとつなぎ、新たな医療の創出に取り組んでいます。



東京医科大学

東京医科大学・研究活動

> https://www.tokyo-med.ac.jp/research/

基礎と臨床が融合した研究の推進

東京医科大学は「患者とともに歩む医療人を育てる」をミッションとし、建学の精神と校是に基づき、思いやりの心と深い教養に裏付けられた最高水準の技能を持った医療人を育成するとともに、臨床を支える高度な研究を推進し、地域そして世界の健康と福祉に貢献することを目指しています。そのミッションに基づき、「患者に優しい医療（低侵襲医療）」の実現に向けた研究活動を推進しており、大学キャンパスと3つの附属病院とが連携し、基礎と臨床が融合した研究を遂行出来る環境を整備し分野横断的な研究を実施しています。



東京歯科大学

東京歯科大学

> https://www.tdc.ac.jp/

多施設共同治験の分担機関としての役割を目指して

東京歯科大学では、これまで企業主導の治験を中心に実施してまいりました。MARCへの参加により、本学の臨床研究体制整備を強化し、機能性を向上させることにより、今までの経験とネットワークを活かし、大学発のトランスレーショナル研究を推進していくとともに、多施設共同治験の分担機関としての役割を担えるように邁進していきたいと考えています。



東京慈恵会医科大学

東京慈恵会医科大学　研究推進センター

> https://www.jikei.ac.jp/research/e-and-r-organization/research-promotion-center/

適正な臨床研究の実施を目指して

本学では、前身の臨床研究支援センターを経て、2025年1月に基礎研究から臨床研究まで一貫して支援を行う「研究推進センター」が設立されました。その臨床研究支援部門においては、治験以外の臨床研究全般を積極的に支援していく体制を整えています。

疾患レジストリーの構築：本学は4つの附属病院を有しており、豊富な臨床情報をもとにSS-MIX（Standardized Structured Medical Information eXchange）を用いた疾患レジストリーの構築を開始しました。これは臨床研究の基盤になるもので、今後さまざまな臨床研究に応用していきます。

GMP対応施設：総合医科学研究センター内に、GMPに対応した細胞調整施設が設置されており、再生医療、免疫細胞治療等に使用されています。



東京女子医科大学

東京女子医科大学　研究推進センター（CARP）

> https://www.twmu.ac.jp/CARP/

「至誠と愛」の精神で社会貢献を果たす

東京女子医科大学は、女性医療者の育成を建学の精神として1900年に創立され、創立者の信念である「至誠と愛」を大学の理念としています。

再生医療あるいは臨床研究など、臨床に役立つ医学・看護学研究を行っています。高度先進医療、地域医療、性差医療などの特徴を持つ多数の附属医療施設における質の高い医療の提供のため、MARCへの参画により臨床研究支援体制の強化を図り、さらなる社会貢献に努めていく所存です。



東邦大学

東邦大学医学部　研究支援センター

> https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/ccr/index.html

「生命の科学で未来をつなぐ」臨床研究を目指して

東邦大学は建学の精神「自然・生命・人間」のもと、医学を含む5学部が連携し自然・生命科学の教育・研究の発展に貢献してまいりました。医学部は3病院を有し、大森病院は東京都区城南部、大橋病院は都区西南部、佐倉病院は千葉県印旛郡の地域中核病院として、高度先進医療と地域医療を展開しています。

これまでの企業主導治験の経験を活かし病院間ネットワークを活用することで、MARCとの連携のもと、臨床研究体制を整備・強化していきたいと考えています。



獨協医科大学

獨協医科大学URAセンター

> https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/research/ura.html

研究支援の連携で医療イノベーションを創出

獨協医科大学では、研究活動の推進が効率的かつ効果的に行われ、研究の質及び成果の向上につながることを目的として、2025年4月にURAセンターを設置しました。URAセンターは、競争的研究費獲得支援、知的財産・産学官金連携支援、研究統計支援などを通じて、本学の研究力強化と研究環境の充実を推進しています。

また、獨協医科大学病院では、特定機能病院として高度先進医療を提供するとともに、臨床研究管理センターにおいて、治験及び臨床研究を一元的に管理・支援しています。研究に参加する患者の安全確保及び人権保護のもと、質の高い治験・臨床研究の推進に取り組んでいます。

研究支援組織が連携し、基礎研究から臨床研究、社会実装までを切れ目なく支援することで、医療分野における新たな価値創出とイノベーションの実現を推進しています。



日本医科大学

学校法人日本医科大学　研究統括センター

> https://www.nms.ac.jp/csri

医療・医学の進化を求めて

学是である「克己殉公」の精神を胸に刻み、世界の人々のために尽くすことを目標に教育研究に貢献し、医療・医学の進化を求めて、あらゆる可能性に挑戦しております。

本学は4つの付属病院を有しており、基礎と臨床が融合した研究を遂行出来る研究体制を整備しつつ、国際水準の臨床研究を推進しその研究成果を生み出すため、シーズ探索、企画・開発、データ管理等を通じて研究者をサポートするとともに、新技術を臨床研究に応用することを目指しています。

本学は、MARCの活動に参加して、人材の育成、情報の共有に貢献しながら、学内外の連携を深め、研究体制のさらなる充実を図りたいと考えています。



防衛医科大学校

防衛医科大学校

> https://www.mod.go.jp/ndmc/

自衛隊医官・看護官育成、防衛医学の推進、地域の中核病院機能に取り組む

防衛医科大学校は、医師である幹部自衛官並びに、保健師・看護師である幹部自衛官および技官となるべき者を養成する防衛省の機関です。ここでは、自衛隊の任務遂行に必要な医学および看護学に関する高度な理論および応用についての知識と、これらに関する研究能力を習得させるほか、治療に関する臨床研修および研究を行っています。

本校は、MARCの活動を通して、学外との連携を深め、臨床研究体制のさらなる充実、共同研究の推進、シーズ実用化のための研究基盤組織の整備、次世代を担う自衛隊衛生の専門家育成を目指していきたいと考えています。



連携協力機関

Members

一般社団法人首都圏ARコンソーシアムは、設立当初から「構成機関」「連携協力機関」の2つの組織を構築しておりました。薬学・理工学・農学等の大学・学部等の先端技術・知識を利活用し医療イノベーションを推進することを目的として構成される連携協力機関では、優れた革新的医療シーズを発掘し、MARC構成機関との連携を加速し、実用化を目指します。

青山学院大学　芝浦工業大学　東京科学大学　東京電機大学　東京都立大学　東京理科大学　早稲田大学　国立研究開発法人 産業技術総合研究所

青山学院大学

青山学院大学理工学部

> https://www.aoyama.ac.jp/faculty/science/

健康の理解から社会実装までのヘルスイノベーションを目指して

青山学院大学には医学部はないものの、理工学部に生命科学や医工学に取り組む研究室があり、動物を用いた化合物スクリーニングや電子顕微鏡画像に基づく疾患診断、遠隔でのバイタル測定技術の開発などの研究が行われています。これらを通して健康や疾患の理解や改善、更には社会実装までを視野に入れてイノベーション化する活動を行っています。MARCに参加することで本学単体では手が届かない臨床研究との連携を図り、日本の医療革新に貢献出来ればと考えています。



芝浦工業大学

芝浦工業大学　複合領域産学官民連携推進本部

> https://www.shibaura-it.ac.jp

社会に学び、社会に貢献する技術者の育成

本学は創立100周年となる2027年に名実ともに“アジア工科系大学トップ10”になる目標を掲げております。そのためには、さまざまな分野でグローバル化や技術の高度化が進む現代社会において、社会は本学をどのような理由で求め評価しているのか、建学の原点に立ち返り、さらなる教育の質向上を目指し全学の求心力を高め、新たな挑戦に取り組んでまいります。豊洲キャンパスに竣工した新校舎に「ベイエリア・オープンイノベーションセンター」を開設し、外部組織との共同研究を推進する拠点として活用してまいります。

本学の有する工学系の幅広い研究シーズをベースとして、MARC参加医・歯・薬系大学と連携して、医療機器への社会実装等の新規医療技術の実現を目指したいと考えています。



東京科学大学

東京科学大学　生命理工学院

> https://www.isct.ac.jp/ja

生命原理の探究から工学的応用へ

生命理工学院は、国内で最初に「生命理工」を冠した教育研究組織であり、生命科学と理工学の学術組織としては最大規模を誇ります。「生命現象のしくみを読み解き、社会に役立てる道を切り拓くことにより、人類共通の知的基盤形成に貢献する」ことを基本方針とし、真理を探究する基礎研究から、バイオテクノロジーを駆使した応用研究まで幅広く展開しています。MARCには2019年より参加し、本学の基礎的シーズを参画機関と連携して、現在の多様なニーズに対応する先進的な薬剤・医療材料、革新的な医療技術の創出を目指しています。



東京電機大学

東京電機大学　研究推進社会連携センター

> https://www.dendai.ac.jp/crc/

「実学尊重」の建学精神で医療機器の実用化を促進

東京電機大学は医歯薬系学部のない大学ですが、理工系大学であるため、生体医工学分野に関する研究・教育では40年以上に亘る実績を持っています。この分野の研究は他分野と異なり実用化に多くの障壁がありますが、本学では、研究推進社会連携センターの総合研究所に「医療・福祉機器開発・普及支援センター」を設置し、医療・福祉機器の研究開発を推進するとともに、専門医や地域の産業などと連携を図ることで実用化を目指しています。

連携協力機関としてMARCに参画し、構成機関から専門的なご指導をいただくとともに臨床研究・治験などを活用し、研究開発のスピードアップと実用化の促進を図ります。



東京都立大学

東京都立大学　総合研究推進機構

> https://research-miyacology.tmu.ac.jp/

学問の力で、東京から世界の未来を拓く

東京都立大学は、東京都が設置する唯一の総合大学として、「学問の力で、東京から世界の未来を拓く」に集約される大学ビジョンのもと、多様な基礎研究や応用研究、大都市課題研究を推進しています。本学には医歯薬学部はありませんが、東京都の医療系研究機関とも連携協定を締結し共同研究を支援するなど、医工連携を中心に医療・ヘルスケアに関連する研究を積極的に推進しています。今後はMARC参画機関とも連携を強化し、本学の研究シーズをベースとした医療・ヘルスケア技術の社会実装をさらに加速していきたいと考えています。



東京理科大学

東京理科大学　産学連携機構

> https://www.tus.ac.jp/ura/

産学連携・社会連携を推進し、社会貢献を促進、イノベーションを創出します。

東京理科大学は2031年の創立150周年に向け、「世界の未来を拓くTUS」を目指しています。建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」のもと、薬学部・薬学研究科を中心に、理学、工学との連携にも力を入れ、医療・創薬分野において積極的な研究活動を展開しております。また、生命医科学研究所や総合研究院における先端領域の融合研究にも力を入れ、基礎から応用に至るバラエティーに富んだ研究成果を生み出しています。MARCに参画する各大学、研究機関との強力なネットワークを活用し、産学官連携を推進して、医学、医療の発展に貢献していきます。



早稲田大学

早稲田大学　リサーチイノベーションセンター

> https://www.waseda.jp/inst/research/innovation

オリジナリティ溢れる健康・医療の発展につながる成果を創出

早稲田大学は、「Waseda Vision 150」のもと、総合大学の強みである多様な分野での知の集積を活用しながら未来をイノベートする独創的研究を推進しています。健康・医療分野については、医理工連携、予防医学、健康長寿、医療政策、データサイエンスなどをキーワードに、健康・医療に関わる研究・人材育成のあるべき姿の実現に向けて検討を進めています。

MARCの活動では参画機関との連携強化を図り、健康・医療の発展に貢献していきたいと考えています。



早稲田大学広報室提供

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

産業技術総合研究所　生命工学領域

> https://www.aist.go.jp/

ともに挑む。つぎを創る。

産総研・生命工学領域は、少子高齢化等の社会課題の解決と経済成長、産業競争力の強化に貢献するイノベーションの創出を目標に、生命工学に関する専門性を持つ4研究部門、5研究領域で連携する融合研究ラボ、大学に設置した2産学官連携研究拠点において研究開発に取り組んでいます。研究課題は、がんや感染症等に対する検出デバイス、人工心肺装置の開発、糖鎖解析、マイクロバイオーム、幹細胞操作など多角的に実施しています。MARCには、医学的なアドバイスや試料提供を期待するとともに、関係各機関と連携して、幅広い先進的な医療機器および医薬品の研究開発を社会実装していくために貢献します。



MARCの取り組み

Initiatives

＞ ワーキンググループ（WG）と専門家連絡会

MARCの重要な取り組みの1つとして、ワーキンググループ（WG）を設置し、具体的に課題を解決すべく議論を行っています。

2017年度にWG1～3を設立、その後2019年初めにWG4、更に2020年にWG5を立ち上げました。MARC加盟機関より1～2名のメンバーが選出され、定期的な会議や活動を行っています。更に、2019年からは、生物統計専門家連絡会を立ち上げて、「生物統計」に関する協議や勉強会を通じて専門家同士の連携・協力体制の強化を行っています。

一般社団法人首都圏ARコンソーシアムは、各WGの活動の推進はもちろんのこと、WG間の連携を拡大すべく種々の取り組みを開始しています。

ワーキンググループ（WG）

体制整備WG：橋渡し研究の基盤を共同で整備します

各構成機関が有する機能（臨床研究支援部門の有無、PM、DM、CRC、監査等の有無）につき、調査・情報共有を行い、MARC内で補完、支援、協力等が可能であるかの検討・議論を行っています。
体制整備WGの議論がもととなり、2019年に「生物統計専門家連絡会」が設立されましたが、今後他の専門家連絡会の設立等も視野に入れ、加盟機関間の連携強化を図ります。

2 シーズ発掘WG：各大学に眠るシーズを発掘し、企業連携につなげていきます

MARC加盟機関がどのようなシステムで優れた研究課題（シーズ）を把握し、大学・研究機関としてどのような支援をしているか調査・発掘・情報共有し、優秀な基礎研究成果をどのように開発し、臨床に向けて推進していくか、最終的には企業への導出を含めた仕組み構築の検討を行っています。MARCとしての研究シーズのリスト化や具体的な企業連携に向けた取り組みについても議論しています。

3 教育・人材交流WG：基礎から臨床研究に関する教育・人材育成を行います

構成機関を中心とした「基礎研究から医薬品・医療機器開発のプロセス、倫理、臨床試験等」に関する教育の現状調査に加え、2019年度からは医師・研究者を対象とした「臨床研究合同研修会」や臨床研究支援者を対象とした講演会を定期的に行っています。今後は連携協力機関の研究者も視野に入れた講習会や研修についても取り組んでいきます。

4 臨床研究WG：MARCの枠組みを活かした共同臨床治験の実施体制を構築します

MARC構成機関の多くは複数の病院を有する大学も多く、MARC加盟機関全体での病床数も約3万床となります。希少疾患への治験や大規模試験も視野に入れ、多施設共同臨床治験体制を構築し、加盟機関内のシーズの臨床治験や企業等からの治験依頼にも応えられるような体制を検討していきます。

5 領域融合WG：医歯系大学以外の革新的な研究シーズの開発を促進します

MARC連携協力機関が中心となり構成されるこのWGでは、医歯系以外の組織から生まれる医療系の研究をいかに医師・医学専門家と結びつけ、研究開発を推進するかにつき検討を行っています。一般的に医歯薬系以外の組織から生まれる研究を「異分野研究」と呼ぶことが多いですが、MARCにおいては領域の異なる分野の専門家が相互に情報共有・協議して革新的な医療シーズを創生していくことを目指し、「領域融合」としています。

専門家連絡会

＞ 生物統計専門家連絡会

2018年4月の臨床研究法の施行に伴い、生物統計専門家の相互支援・協力体制が必要と考え、2019年に「生物統計専門家連絡会」を新設し、2021年からは相互支援の仕組みを整えました。CRB（認定臨床研究審査委員会）で生物統計に関する相談や学外の技術専門員の依頼が必要な場合の相談対応、また論文作成や論文支援、公的資金獲得のための相談や依頼に対して、MARC加盟機関の生物統計専門家が協力して対応する仕組みです。この連絡会では、生物統計に関する協議や勉強会を通じて専門家同士の連携・協力体制の強化を図っています。

＞ シンポジウムの開催

MARCでは、設立後年1回シンポジウムを開催してきました。2020年以降は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響によりその開催形式を含め見直しが必要となりましたが、2024年には対面の開催を再開し、MARC活動に直結したタイムリーなテーマの講演を企画して、定期的な開催をしています。

＞ セミナー・講習会の開催

MARCでは、加盟機関が開催するオープンなセミナー・講習会の案内や情報共有をMARCのwebサイトを通じて行っています。基礎研究の成果を臨床につなげていく上で必要な教育の場を広げ、人材育成・人材交流を図っています。WG3が主催となり開催する研修会・講演会もアカデミア・医療機関・企業等へ広く発信していきます。

＞ 「BioJapan」への出展

MARCは、毎年10月にパシフィコ横浜で開催される「BioJapan」に2019年より参加し、ブースでの出展を行っています。MARCの活動やMARC加盟機関の紹介等を行い、企業との連携強化を行っています。

＞ 各種調査への協力

MARCでは、各種AMED事業に関連したネットワークを利用した取り組みにつき、種々の調査等があった際にフレキシブルな対応が出来るような体制を構築しています。各WGの活動に関しても、加盟機関の意向・意見を可能な限り反映出来るよう種々のアンケート等を通じて得られた結果をもとに方向性を決定しています。

＞ webサイトを利用した情報提供・共有

webサイトの開設により、MARCの活動について発信を行っています。MARC加盟機関間での情報共有は「会員のページ」を通じて促進しています。今後はリアルタイムに意見交換・情報共有が出来る仕組みについても対応を検討していきます。

MARC webサイト　https://marc-med.org/

MARC

Metropolitan Academic
Research Consortium

● **ロゴマークについて**

橋渡し研究の「橋」とMARCの「M」をモチーフに作成したマークです。
また、「都会的」「先進的」なイメージをシャープなラインや黒とブルーの色彩で表しています。



> お問い合わせ

首都圏ARコンソーシアム（MARC）事務局
慶應義塾大学病院内

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
TEL: 03-5363-3961 FAX: 03-5363-3293
E-Mail: marc-sec@marc-med.org
URL: https://marc-med.org/